

第13号 緑高SSH

冬のお出かけ
紹介号ない~

2024年2月20日



タイ北部スタディツアー(2023年12月24日~31日)

「タイ北部スタディツアー」を12月24日~31日の7泊8日で実施しました。タイ北部は山岳地域で山地民族が居住しています。中でもチェンライよりも北は「ゴールドトライアングル(黄金の三角地帯)」と呼ばれる地域で、ミャンマー、ラオスと国境を接しています。タイの中でも最も貧しい地域のひとつで、かつてこの地域はアヘンの一大生産地域でしたが、現在はそれに代わってコーヒーがこの地域を支えています。



スタディツアーでは、この地域で山地民支援を30年以上にわたって実施している「ルナルンプロジェクト」に協力してもらい、山地の村を訪ねました。その村で、12月が最盛期であるコーヒーの摘み取り作業に参加させてもらい、地域のお祭りを見学して、宿泊をしました。山地の村は貧しいというイメージがありましたが、コーヒーや茶の栽培で安定した収入を得ることで、生活水準が向上した現在の様子を見ることができました。

また、今回のスタディツアーでは2つの学校と交流を深めることができました。首都バンコクの北にあるアユタヤ遺跡の近郊のアントンパタマロート校と、ルナルンプロジェクトがあるウィエンパバオのウィエンパバオウイタヤーコム校です。アントンでは日本語学科の皆さん全員が出迎えてくれて、ホールを利用した大規模な交流会となりました。全員でゲームをし、昼食のパッタイをいただきました。ウィエンパバオでは13名の日本語学科の生徒の皆さんとの交流でした。教室でゲームなどの交流をして学校を案内していただきました。生徒たちは連絡先を交換しており、これからも交流は続くと思います。



東日本大震災メモリアルday2023(2024年1月19日・20日)

宮城県多賀城高校で「東日本大震災メモリアル day2023」が1月19日、20日の2日間にわたって行われ、夏に福島スタディツアーに参加した5名が行ってきました。当日は全国各地から約20の高校の、延べ80名の高校生が、多賀城高校の災害科学科の皆さんとともに議論を通して災害について学びました。1日目の東北大学の佐藤翔輔准教授による「災害があったことが“伝わる”ために」という講演では、過去の出来事や経験が“伝わる”にはどうすれば良いのかを考えました。それに次ぐグループワークでは、講演の内容を活かして「震災などの自然災害を知らない、関心が低い人に「何を」「どのように」「伝える」ことができるのか?」というテーマで6人ずつに分かれて討論を行いました。討論では、様々な視点からの意見が飛び交いました。2日目の午前中は、体育館でポスターセッションを行い、本校は「震災から学ぶ~情報の波に抗う力~」という題で、福島で学んだことから能登半島地震での事例も含めて考察をし、災害時の情報リテラシーについて発表しました。午後は「津波伝承まち歩きスタディツアー」に参加し、多賀城高校災害科学科の皆さんの案内で多賀城の町歩きました。現地での津波の映像を見ながら、実際に起きたことがわかる丁寧な説明をうけながらのフィールドワークでした。直前に能登半島地震が起こったことから緊張感はありましたが、全国の高校生と和やかな雰囲気の中で交流しながら話し合っただけ2日間になりました。

